

Black Paradise

僕は見上げた。光が漏れている。

何の光なのかは分からないけど、強すぎず弱すぎず心地良い強さの光だ。うっすら周りが見えて、どこにもぶつからず歩くことのできるくらいの暗さ。これくらいがちょうどいい。

その優しい光になんと名前をつけようか、そんなことを考えていると、遠くで子供が断末魔の叫びを上げるのが聴こえた。ここは楽園だと思っていたのに、物騒な出来事もあるものだな。優しい光だというのは撤回だ。そうして僕は新たな楽園を探すことにした。

僕は孤独が好きだ。他と関わらず、干渉し合うことなく生きていければ、どんなに心地良いとか。だけど、「他所様と干渉し合わない」なんてことは現実では無理なこと。住むことのできる空間の広さも限られている。だから互いに譲り合う必要がある。そして、他人を理解することによって、「生きやすさ」に繋がる場合もある。だからできるだけ程よい距離感を持って自分だけの楽園を作ろう。

新たな旅が始まった。